

[授業概要・到達目標]

倫理学を学ぶことは、まず私たち自身に身近なものへ注目することからはじまります。なぜなら、倫理学とは私たち自身を含む人間とその生活世界を対象とし、それに対する理解を深める学問だからです。身近なものへ注目し、そして事実の観察と、問題の発見、考察を通して、再び私たち自身の生活や生き方へともどっていく……それが倫理学という学問です。この場合、大切なことは、人間(自分自身)を離れては「倫理」学は存在しないということです。つまり、どのような問題でも、すべて人間の問題として、さらに自分自身の問題として、考察していくことが大切です。歴史を振り返ってみるならば、様々な先人たちが色々な主張をし、行動をしています。先人の思索と行動を振り返りながら、今生きている自分自身の問題と照らし合わせて悩み、考え抜くことが、倫理学にとっては、たいへん重要な学習だといえます。様々な問題に対して知識人や評論家風に「他人事」として考えるのではなく、自分自身の問題として悩み考え抜く。そうした営みを通じて、私たち自身の倫理・倫理学の構築をして参りたいと思います。到達目標は次の三点です。

1. 倫理学とはどういうものかについて、理解・把握する。
2. 倫理に関する考え方、歴史を学ぶ。
3. 私たち自身の倫理、倫理学の構築。

[授業のねらい・方法]

本講座では、概念や知識を盲目的に理解・暗記することを目的とはしません。様々な課題に対して、先人たちの言葉に耳を傾けながら、今生きている自分自身の問題として考え抜く……。そこに重点を置いた授業にして参りたいと思います。倫理学は「人を殺してはいけない(汝殺す勿れ)」理由を教えるはくれません。「なぜ」「人を殺してはいけない(汝殺す勿れ)」のかを自分自身で悩み・考え・手につかむ。それが倫理学の醍醐味です。フランスの女性思想家シモーヌ・ヴェイユは「現実のただなかで人間を深めよ」という言葉を残しております。先哲の言葉に耳を傾けるなかで、自己理解、他者理解、世界理解を自分自身の問題として深めて参りたいと思います。「頭」だけで考えるのは倫理学ではありません。同じように「心」だけで考えるのも倫理学ではありません。徹底的に「頭」と「心」を使って考えるのが倫理学です。履修される際には、相撲のぶつかり稽古のように積極的に参加して欲しいと思います。

[授業形態](履修条件)

講義形式を基本とします。ただし、講義した内容に関して履修者の皆さんひとりひとりに考えてもらう時間、そして学友と内容を共有するディスカッションのひとときをもうけます。講義→思索→ディスカッションのサイクルを通して、①考え方や問題を学ぶ・発見する、②その事柄を自分自身で考える、③そして、他者と相互吟味する。その作業を大切にしたいと思います。その営みを通して、自分自身の存在とは何かはつきりします。そして時には自分と全く異なる考え方に驚異することもあるでしょう。しかし異なる意見との出会いにより他者の存在を学ぶことが初めて可能になるものです。その有機的な相関関係のなかで、ひとりひとりが、あきらめずに考え抜く、他者と向かい合っていく、そうしたリハーサルができるのだと思います。また全体を通して一方通行の講義に傾くことをさけるため、リアクション・ペーパー(授業感想のコメント)を毎回提出していただきます。提出後はその内容をフィードバックいたします。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	堅苦しい学問とはとらえずにリラックスして参加して下さい。	ガイダンス この講座の目的と到達目標、授業内容についての説明。	「倫理」という言葉の意味に関して自分自身で調べてみましょう。	
第2回 内容	前回講義終了前に、次の授業内容の紹介と議論の議題を紹介します。授業に参加するまでに、その内容を自分なりに整理し、まとめておきましょう。また使用する教材は前もって配布しますので指定箇所は必ず読んで授業に望んで欲しいと思います。	倫理学を学ぶにあたって——『論語』からまず、はじめに「学ぶ」ことの意義を『論語』の言葉に耳を傾けながら考えてみます。自分自身の原点、スタート地点を最初に確認したいと思います。	何故、大学で学ぼうと思ったのか、その原点を確認し、メモしておきましょう。	孔子『論語』岩波文庫ほか、和辻哲郎『人間の学として倫理学』岩波文庫。
第3回 内容	同上。	「頭」と「心」を使って考える(1)ケース・スタディ「何故人を殺してはいけないのか」倫理学は「何故人を殺してはいけないのか」を教えてください。様々な論者の言葉に耳を傾けながらその理由を徹底的に考えてみたいと思います。	時事的なニュースや歴史的な事件を自分で調べて下さい。そして何故「生命尊厳」の発想が要請されるのか、自分自身の考え方を自分の言葉で整理してみましょう。	パスカル『パンセ』白水社、レヴィナス『暴力と聖性』国文社。
第4回 内容	同上。	倫理学の観点(1)身近なものごとへ注目倫理学は私たち自身とその生活を対象とする学問です。最初に「日常的なことは考えるに値しない」と思われがちな「生活」に注目することの大切さ、そしてその方法を紹介します。	貴方にとっての身近なものとは何でしょうか、そしてそれはどういうものでしょうか。そして自分自身が注目しているものは何かありますか？それを整理してノートにまとめてみましょう。ひとは道ばたの草花を「雑草」と呼ぶ。しかし「雑草」という名の植物は存在しません。	『孟子』岩波文庫、メーテルリンク『青い鳥』新潮文庫。
第5回 内容	同上。	倫理学の観点(2)発見、(3)自分で考える世紀の「新」発見だけが「発見」ではありません。「発見」とは関心を払わなかったことに注意を向けることです。そして注意を向けた事柄に対して、できあいの知識をすりあわせることが学習ではありません。大切なのは「自分で考える」ことです。この二つの方法を概観します。	貴方が何か発見したときのことを思い出してください。また「考える」とはどういうことか、なぜ人間は考えるのでしょうか。自分の経験を振り返りながらノートにまとめてみましょう。	ヘレン・ケラー『奇跡のひと』新潮文庫。

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第6回 内容	同上。	倫理学の観点(4)思索から自覚へ、(5)社会と歴史に学ぶ 考えることが孤立した個人の内で終わってしまった場合は独りよがりな独断専行へと陥りやすいものです。だからこそ全体のなかで考える(自覚)、社会と歴史に耳を傾けるなかで、公共性を保つことが必要となります。そのポイントを紹介します。	思索と自覚の違いは何か、言葉を語源にそって調べてみましょう。また貴方は世の中の出来事に関心をもっていますか。過去の出来事についてはどうでしょうか。そこに何を求めているのでしょうか。気になる事件や出来事とその理由をノートに整理してみましょう。	プラトン『メノン』岩波文庫、プラトン『国家』岩波文庫。
第7回 内容	同上。	「頭」と「心」を使って考える(2)ケース・スタディ「人類とは誰か」 ひとは「人類のために」に貢献しようと思うこともあれば、「人類のために」と言いながら人を殺すこともあります。その難問を取り上げ、人間観の問題として徹底的に考えてみます。	言葉とは恐ろしいもので、ある定義を下すと定義から外れる存在を「非・〇〇」と扱います。自分自身の人間観はどうなのでしょう。今一度ふりかえってみたいと思います。モンスター〇〇は他人事ではなく、自分自身の心の中にも住んでいるかもしれません。	ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』光文社ほか。
第8回 内容	同上。	倫理学の課題(1)倫理という言葉の社会性 まず「倫理、ethics」という言葉の持つ意味を把握してもらいます。人間の社会性に注目しながら、人間のあり方、東西の人間(関係)のあり方を概観してみようと思います。	人間の社会性の利点と欠点を整理してください。整理する中で、欠点をフォローすることは可能でしょうか。そして可能な場合、どのような方法が考えられるでしょうか。生活経験に即して考えてノートに整理してみましょう。	
第9回 内容	同上。	倫理学の課題(2)「人間とは何か」 様々な人間観に耳を傾けながら、西洋の人間観、東洋の人間観を理解する。同時に「人間とは何か」という課題を深めつつも、特定の立場に固定化させてはいけない発想である点を確認します。	動物との対比から人間を考えてみましたが、貴方自身は人間をどのようなものと理解しますか。考えをノートにまとめてみましょう。	モンテーニュ『エッセー』岩波文庫。
第10回 内容	同上。	倫理学の課題(3)個人と社会 人間のあり方は孤立した個人としてのあり方と社会という全体のあり方のふたつの局面が存在します。西洋の個と全体の関係を振り返りながら、人間のあり方について考えてみます。	西洋は伝統的に個人主義の社会といわれます。西洋における個人主義を理解した上で、日本における個人主義の運用実態はどうでしょうか。社会現象、時事的問題に即してノートに整理してください。	カント『啓蒙とは何か』岩波文庫。
第11回 内容	同上。	前回講義のつづき。東洋の個と全体の関係を振り返りながら、人間のあり方を考察してみます。また、まとめとして東西の共通点・相違点を紹介します。	極端な個人主義は利己主義へと走り、極端な共同体主義は全体主義へと傾きます。そしてその両極から両極への地滑りが落ちやすいのが歴史の事実です。それを防ぐ方法はあるのでしょうか。考えてみてください。	夏目漱石『私の個人主義』講談社、カント『カント全集14』岩波書店。
第12回 内容	同上。	「頭」と「心」を使って考える(3)ケース・スタディ「日本の精神風土の特色」 これまでの講座で、人間観の問題、そして個と全体の問題を検討しましたが、まとめとして、日本の精神風土の特色を討議してみます。	これまで日本で生きてきて嫌だったこと、よかったことを整理して書き抜いてみましょう。また異なる文化と対比することで、日本に生きて学ぶ自分自身を改めて理解することができます。そのことをノートに整理してみましょう。	福沢諭吉『文明論之概略』岩波文庫、中江兆民『一年有半』岩波文庫。
第13回 内容	同上。	倫理学の活かし方(1) 倫理学とは何かできあがった体系や理論を知識や概念として習得する学問ではありません。ひとりひとりの人間が逡巡・熟慮・決断を経験する中で、「こんなもんなんだよな」ってあきらめずに追求する学問です。その活かし方として「良心の内発性」に注目しながら、そのポイントを紹介します。	「よいからよい」「わるいからわるい」ではなく、「〇〇だから〇〇だ」という根拠を自分をもつ訓練をしてみましょう。	
第14回 内容	同上。	倫理学の活かし方(2) 同上。二つ目は「思考の硬直性」をさけることです。レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯を振り返りつつそのポイントを紹介します。	これまでに思考が硬直化した経験はないか確認してみましょう。その時のことを思い出しながら最善策はなかったか確認しましょう。	『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』岩波文庫、スピヴァック『サバルタンは語るができるか』みすず書房。
第15回 内容	ノートの復習	これまでの学習内容のまとめと試験。	現実のただなかで人間を深めてもらいたいと思います。	

- * 評価方法 全回出席が原則です。単位認定の可否は大学の定める欠席回数に準じます。また遅刻や早退の扱いも同じです。リアクションペーパー40、試験30、授業態度30
- * 評価基準 こちらでテキストに準じた配布物・資料を毎回配布します。上記の他に授業の中で紹介します。
- * テキス 質問は活発にしてください。また履修者からの議題や講義テーマの提案も歓迎いたします。

現代子ども学Ⅰ

半期 2単位 必修 受講対象学年1年次

伊藤 勝博・竹内 アンナ・大野 雄子
林 孝 憲・久保木 健夫・新田 司
原 子 純・清水 一 巳

[授業概要・到達目標]

子ども本来の心や体の成長・発達の姿及びそれらを阻害する要因等について、各種の調査研究に基づき講じる。

[授業のねらい・方法]

子ども本来の心や体の成長・発達の姿及びそれらを阻害する要因等に関する学びを通して、現代の子どもを総合的に理解することを目的とする。

[授業形態](履修条件)

- ・私語厳禁
- ・各回の配付資料はきちんと保管すること。

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを精読する。	オリエンテーション	授業内容を復習する。	適宜紹介する。
第2回 内容	子どもに関する問題関心を整理する。	「子ども学とは何か」	同上	同上
第3回 内容	同上	子どもの成長と発達1	同上	同上
第4回 内容	同上	子どもの成長と発達2		
第5回 内容	同上	子どもの成長と発達3	同上	同上
第6回 内容	同上	子どもの成長と発達4	同上	同上
第7回 内容	同上	現代の子どもを取り巻く状況1	同上	同上
第8回 内容	同上	現代の子どもを取り巻く状況2	同上	同上
第9回 内容	同上	公開講座事前オリエンテーション	同上	同上
第10回 内容	同上	公開講座(外部講師)	同上	同上
第11回 内容	同上	現代の子どもを取り巻く状況3	同上	同上
第12回 内容	同上	現代の子どもを取り巻く状況4	同上	同上
第13回 内容	同上	現代の子どもを取り巻く状況5	同上	同上
第14回 内容	同上	現代の子どもを取り巻く状況6	同上	同上
第15回 内容	授業全体の復習をする。	授業のまとめ	同上	同上

* 評価方法

各回の試験、公開講座の受講レポートを基に、総合的に評価する。

* 評価基準

各回の試験(8割)、レポート(2割)

* テキスト

担当者が用意するプリント等を使用する。

* 参考文献

適宜紹介する。

長戸 路雄厚・松本 峰雄・竹内 アンナ
吉村 真理子・森重 俊幸・藤 京子
久保木 健夫・林 孝憲・桑原 逸美

[授業概要・到達目標]

近年、子どもを取り巻く自然や家庭・社会の環境が著しく変化し、子どもの心身の発達上様々な問題が生じている。そこで本講義では、子どもと社会や文化、生活環境との関わりについて、各種の調査研究に基づき講じる。

[授業のねらい・方法]

現代の子どもと社会や文化、生活環境との関わりに対する学びを通して、現代の子どもを総合的に理解することを目的とする。

[授業形態](履修条件)

- ・私語厳禁
- ・各回の配付資料はきちんと保管すること。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを精読する。	オリエンテーション	授業内容を復習する。	適宜紹介する。
第2回 内容	子どもに関する問題関心を整理する。	現代の子どもと生活1	同上	同上
第3回 内容	同上	現代の子どもと生活2	同上	同上
第4回 内容	同上	現代の子どもと家族1	同上	同上
第5回 内容	同上	現代の子どもと家族2	同上	同上
第6回 内容	同上	現代の子どもと文化1	同上	同上
第7回 内容	同上	現代の子どもと文化2	同上	同上
第8回 内容	同上	公開講座事前オリエンテーション	同上	同上
第9回 内容	同上	公開講座(外部講師)	同上	同上
第10回 内容	同上	現代の子どもと社会1	同上	同上
第11回 内容	同上	現代の子どもと社会2	同上	同上
第12回 内容	同上	現代の子どもと環境1	同上	同上
第13回 内容	同上	現代の子どもと環境2	同上	同上
第14回 内容	同上	現代の子どもと環境3	同上	同上
第15回 内容	授業全体の復習をする。	授業のまとめと評価		

* 評価方法

各回の試験、公開講座の受講レポートを基に、総合的に評価する。

* 評価基準

各回の試験(8割)、レポート(2割)

* テキスト

担当者が用意するプリント等を使用する。

* 参考文献

適宜紹介する。

[授業概要・到達目標]

既習の数学における基礎的な知識や技能について見直すとともに、数学の活用能力を一層伸張し、事象を数理的に考察する能力を高める。

[授業のねらい・方法]

- 1 数学を構成する三領域(数と式、図形、数量関係)について、身近な事象との関連を図りながら考察するとともに、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度の育成を図る。
- 2 講義だけでなく、定着を図るための問題演習と発表の時間をなるべく多くとる。
- 3 小テスト、レポート等の課題をとおし、継続的積極的に数学的な見方や考え方の育成を図る。
- 4 教員採用試験への対応も視野に入れつつ、より高い学力を培う。

[授業形態](履修条件)

講義、問題演習および学生による発表

教科の「算数」を履修しておくことが望ましい。

[各回の授業計画(内容)](半期科目)

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	小中学校で学んだことを思い出し書き留めてみる。	オリエンテーション 学生の数学学力の実態把握(小テストと解説)	小テストは、小中学校での既習事項であるので充分復習	小・中学校教科書
第2回 内容	教科書での正負の数の計算の取り扱いを調べる。	「数と式」領域 正負の数の意味と四則計算 文字式の加法減法 方程式の意味と解き方	課題をとおし、正負の数の四則計算、文字式の計算に習熟	小・中学校教科書
第3回 内容	前時の復習 身近な事象にある連立方程式の例を考えてみる。	「数と式」領域 文字式の四則計算と利用 不等式・連立方程式の意味と解き方	課題をとおし、連立方程式及びその応用に習熟する。	小・中学校教科書
第4回 内容	電卓の用意 因数分解とは何か、教科書での扱いをとおして調べる	「数と式」領域 平方根の意味と計算 文字式の展開と因数分解	次回の小テストに備え「数と式」領域の課題に取り組む。	小・中学校教科書
第5回 内容	事前配付のプリントの課題を解き小テストに備える。	「数と式」領域 二次方程式の意味と解き方 二次方程式の応用 小テスト	二次方程式の解き方に習熟する。 小テストの復習	小・中学校教科書
第6回 内容	コンパス、三角定規の用意 垂直二等分線や垂線の意味を調べる	「図形」領域 図形の作図(角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線、平行移動など)	図形の作図について復習し再度角の二等分線等を書く。	小・中学校教科書
第7回 内容	コンパス、三角定規の用意 平面上に立体図形を描いてみる。	「図形」領域 図形の操作と空間図形(空間における直線や平面の位置関係、切断・展開)	分かりにくい空間図形については模型を作ってみる。	小・中学校教科書
第8回 内容	コンパス、三角定規の用意 三角形の合同・相似条件を確認する。	「図形」領域 平面図形の性質(三角形の合同 平行四辺形 図形の相似と三角形の相似条件)	合同条件、相似条件を使って証明問題に取り組む。	小・中学校教科書
第9回 内容	コンパス、三角定規の用意 円周角中心角の意味 小テストの課題学習	「図形」領域 円の性質(円と直線 円周角と中心角) 三平方の定理と応用 小テスト	三平方の定理の発見と応用。小テストの復習	小・中学校教科書
第10回 内容	グラフ用紙の準備 $y=2x$ 及び $y=2x+3$ のグラフを描いてみる。	「数量関係」領域 関数(表・グラフ・式 一次関数と変化の割合) 数の表し方など	色々な一次関数のグラフを書き、係数と切片を理解する	小・中学校教科書
第11回 内容	事前に配布された資料をどう統計的に処理したらよいか考える。	「数量関係」領域 統計資料の処理(度数分布とヒストグラム 相対度数 平均値)など	度数分布、平均値の意味の理解と活用に習熟する。	小・中学校教科書
第12回 内容	対応表を作成し、関数 $y=2x^2$ のグラフを描いてみる。	「数量関係」領域 関数関係(変化や対応の特徴 関数 $y=ax^2$)	係数 a の値によりグラフがどうなるか確認する。	小・中学校教科書
第13回 内容	電卓の用意 小テストの課題学習 身近な事象における確率を調べる	「数量関係」領域 確率(確率の意味 簡単な場合の確率の値) 標本と母集団 小テスト	身近な資料を統計的に処理してみる。小テストの復習	小・中学校教科書
第14回 内容	正方形の辺を動く点について、距離と時間の関係を考察する。	三領域統合の問題について(図形と関数にかかわる問題など)	教科書等を参考に三領域を含んだ問題を作成してみる。	小・中学校教科書
第15回 内容	既習事項の整理と試験準備	三領域のまとめと演習	本時までに学んだことを復習・整理する。	小・中学校教科書

* 評価方法 レポート、小テスト、定期試験の成績等による。

* 評価基準 レポート20%、小テスト20%、定期試験成績40%をもとに総合的に評価する。

* テキスト 配付プリントを主体とする。

* 参考文献 小・中学校教科書(算数・数学)

[授業概要・到達目標]

日本国憲法を学ぶことは、1つの法律を知るといよりもむしろ、日本という国の「仕組み」を把握することだ。憲法とは、その国の「仕組み」を内外に向けて発表した文書であり、その国の政治・経済はおろか、社会・文化にまで影響を及ぼすこともある。受講生には、本授業を通して、日本という国がいかなる仕組みの下で存在しているのか、いかなるルールに基づいて運営されているのかを学んでもらいたい。

[授業のねらい・方法]

毎回、重要用語を空欄にした講義資料を配布する。そして、教壇前方のスクリーンを利用して講義を進行する。受講生は講義を聴講しながら資料空欄を埋めていくこと。空欄内容は期末試験において重要なポイントとなる。なお、授業最後の20分を利用して、その回の内容に関連するレポートを作成してもらう。レポート内容は平常点に重大な影響を及ぼすだろう。なお、場合によっては、上記授業方法は一部変更となる。

[授業形態] (履修条件)

講義形式。場合によっては、下記の各回授業内容は一部変更となる。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	とくになし	オリエンテーション	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第2回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	総論(1)世界各国の憲法	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第3回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	総論(2)日本国憲法の概要	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第4回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	総論(3)日本国憲法の歴史	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第5回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	人権(1)精神的自由	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第6回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	人権(2)経済的自由	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第7回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	人権(3)身体的自由	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第8回 内容	事前に指定されたテーマを予習すること	課題(1)任意テーマ	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第9回 内容	事前に指定されたテーマを予習すること	課題(2)任意テーマ	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第10回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	統治(1)行政	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第11回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	統治(2)立法	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第12回 内容	高校・公民科における該当分野の学習	統治(3)司法	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第13回 内容	事前に指定されたテーマを予習すること	課題(3)任意テーマ	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第14回 内容	事前に指定されたテーマを予習すること	課題(4)任意テーマ	配布したペーパーの内容を確認すること	その都度指定する
第15回 内容	これまでに学習した内容を復習すること	まとめ	特になし	その都度指定する

* 評価方法

平常点は毎回提出するレポートの内容によって決定される。万が一、私語などがあった場合、平常点に深刻な影響を及ぼす。

* 評価基準

平常点50%期末試験50%で評価する。成績評価は厳格に行うので注意すること。

* テキスト

特になし。

* 参考文献

その都度指定する。

[授業概要・到達目標]

授 業 概 要 : 授業は、主として①情報倫理学習 ②日本語入力高速化(キーボードトレーニング)
③各種文書作成・編集ならびに画像編集(オフィス2007中心) ④絵作り編集(ペイント応用) ⑤N e t 活用技術
(情報伝達、情報検索等)の5分野からなる。

到 達 目 標 : 日常生活や卒業後の職場で、パソコンをツールとして使いこなせるようにすること。

[授業のねらい・方法]

授業のねらい : ①日本語入力速度、350字を10分以内入力達成 ②オフィス2007各種ソフトウェア(Word、Excel、Paint、PowerPoint)編集技術
高度化達成 ③N e t 活用技術高度化達成
(パソコンメール、キーワード検索、カテゴリ検索等)

方 法 : 授業で毎回、課題に応じた練習問題を課す。それらを確実・正確に短時間で処理することにより到達目標をクリアさせる。

[授業形態](履修条件)

P C 教室において実習主体で行う。IT機器を駆使できるようになるには、日頃からの利用が大切。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	日頃からのパソコン使用が大切、 以下同様	1) オリエンテーション 2) メールアドレス・パスワード配布	日頃からのパソコン使用が 大切、以下同様	必要に応じ紹 介、
第2回 内容		情報倫理学習(e ラーニング)		
第3回 内容		キーボードトレーニング実施 (練習用ソフト「タイプクイック」使用)	各自時間を作り練習	
第4回 内容		同上	同上	
第5回 内容		同上	同上	
第6回 内容		同上	同上	
第7回 内容		日本語入力速度向上練習	同上	
第8回 内容		(350字10分以内達成)	同上	
第9回 内容		日本語入力試験実施		
第10回 内容		電子メール送受信技術習得 (メールソフト「グレースメール」使用)	各自学園生活で積極利用のこ と	
第11回 内容		「ワード」編集技術高度化 (「各種ビジネス文書」、「長文文書」、「案内板作り」)	授業中各種課題提示、未終了の場 合、各自空き時間を利用し完成	
第12回 内容		同上	同上	
第13回 内容		同上	同上	
第14回 内容		同上	同上	
第15回 内容		同上	同上	
第16回 内容		同上	同上	
第17回 内容		「ペイント」(絵作りソフト)操作技術高度化 (ポスター、年賀状、クリスマスカード等作成)	未終了の場合、各自空き時間を 利用し実施	
第18回 内容		絵作り編集技術高度化 (「ペイント」使用) (クリスマスカード、年賀状作成)	同上	
第19回 内容		N e t 活用技術高度化 (「グーグル」、「ヤフー」利用) (キーワード検索、カテゴリ検索)	同上	
第20回 内容		「エクセル」編集技術高度化 (「ビジネス各種統計表」、「成績表」、「住所録」、「カ レンダー作り」、「園便り・クラス便り」)	同上	

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第21回 内容		同上	同上	
第22回 内容		同上	同上	
第23回 内容		同上	同上	
第24回 内容		同上	同上	
第25回 内容		同上	同上	
第26回 内容		同上	同上	
第27回 内容		「パワーポイント」編集技術高度化 (プレゼンテーション技術習熟) (「短大・敬愛フェスタ・体育祭PR」、「クラスPR」 「体験実習PR」、「アニメキャラPR」)	同上	
第28回 内容		同上	同上	
第29回 内容		同上	同上	
第30回 内容		総合まとめ		

* 評価方法

授業中提示の各種課題の実施・達成状況の評価(年度末に調査)。

* 評価基準

配点は以下の通り、合計100点の60%以上を単位認定とする。

1. キーボードトレーニング 15点
2. 日本語入力試験 15点
3. 各種課題達成状況 70点

* テキスト

使用せず(必要に応じ資料配布)。

* 参考文献

必要に応じ紹介。

* オフィス・アワー

毎週水曜日 12:20~13:00

【授業概要・到達目標】

MS Officeソフトウェアの操作等を通して、パーソナルコンピュータを活用する上で必要な具体的、実践的な知識・技術を習得するとともに、情報技術の進歩・発展に積極的、能動的に対応し得るような知識的、技術的な素地を養う。

【授業のねらい・方法】

MS Windowsマシンの基本操作と関連知識、タイピング、電子メールやWebブラウザの利用、MS Office (Word, PowerPoint, Excel)ソフトウェアの操作・活用等について学習する。

【授業形態】（履修条件）

コンピュータ教室において演習形式で授業を進める。自宅にコンピュータを有する者は、必ず復習を行い、授業で学んだ知識・技術等をさらに強固なものにしておくこと。毎回プリントを配布する。各回に演習課題を設ける。Season Iを除いて、各Seasonごとに実技試験(3回)を行う。

【各回の授業計画（内容）】

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	受講前に、既習の知識・技術等を一定程度整理・復習しておくことが望ましい。	Season I ——コンピュータ利用の基礎—— オリエンテーション(授業の進め方、コンピュータ教室の端末の使用法、USBフラッシュメモリの説明、授業用掲示板の説明等)	1. 学習内容の復習。 2. 演習課題未了の者は次回までに終了させる。 3. 積極的にコンピュータを使う。	授業で適宜紹介する。
第2回 内容		タイピングの基本、ウィンドウの操作、ファイルとフォルダ(ファイルの種類と拡張子、フォルダの階層構造、ファイルとフォルダの操作)、テキストエディタの使用法、日本語入力の方法	上記に加えて、各自で時間をつくり、継続的にタイピング練習を行う。以下同じ。	
第3回 内容		電子メール(IDとパスワード、送受信、ファイルの添付、同報送信、設定)、情報倫理(電子メールや掲示板のマナー等)、タイピング		
第4回 内容		情報セキュリティ(ウイルス、スパイウェア、迷惑メール、フィッシング詐欺、不正侵入、暗号化等)、タイピング		
第5回 内容		Webサイトの閲覧(URL指定、検索、ダウンロード、ブラウザのメニューバー、ツールバー、エンコード、セキュリティ設定等)、タイピング		
第6回 内容		Season II ——MS Wordの操作・活用—— Word第1回：基本的な使用方法(画面の各部分の説明、文書の新規作成、文字列の移動・コピー・貼り付け、アンドゥ・リドゥ、タブ・リボンの使用方法、書式設定、データ保存等)、タイピング		
第7回 内容		Word第2回：ページ設定と印刷(改ページ、ページ設定、ヘッダとフッタ、日付やページ番号の挿入、印刷プレビュー、印刷等)、タイピング		
第8回 内容		Word第3回：段落の設定(インデント、字下げ、罫線)、スタイル(文字、段落)の設定、段組みの設定(2段組み、段区切り)、脚注の設定等、タイピング		
第9回 内容		Word第4回：描画オブジェクトの利用(図形描画ツールバー、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、テキストボックス、画像ファイルの挿入、図形の調整・順序・グループ化等)、タイピング		
第10回 内容		Word第5回：罫線の使い方(表の挿入、行や列の挿入・削除、セルの大きさの設定、罫線の種類、網かけ等)、タイピング		
第11回 内容		Word第6回：PDF (Portable Document Format) ファイルの作成、タイピング		
第12回 内容		Word総合演習1、タイピング		
第13回 内容		Word総合演習2、タイピング		
第14回 内容		Word総合演習3、タイピング		
第15回 内容		Word総合演習4、タイピング(タイピング成績確定) ※前期試験期間中に実技試験。		
第16回 内容		Season III ——MS PowerPointの操作・活用—— PowerPoint第1回：PowerPointの基本的な説明、具体例の紹介、新規スライドの作成、デザインの適用、文字列の入力、データ保存等、発表テーマの設定、内容構成等	授業時間外にも、継続的にスライド作成を行う。以下同じ。	

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第17回 内容		PowerPoint第2回：スライドの作成(スタイルの適用, スライドの挿入, 書式設定, 箇条書き, テキストボックス, 印刷の設定等), 発表用スライドの作成		
第18回 内容		PowerPoint第3回：描画とスライドショー(オートシェイプ, クリップアート, スライドショーの設定・実行等), 発表用スライドの作成		
第19回 内容		PowerPoint第4回：アニメーションの設定, ビデオファイルの取り込み等, 発表用スライドの作成		
第20回 内容		PowerPoint第5回：発表用スライドの設定, 発表の方法, 発表上の注意・心構え, 評価の方法・観点等, 発表用スライドの作成		
第21回 内容		プレゼンテーション演習1(発表と質疑)※実技試験		
第22回 内容		プレゼンテーション演習2(発表と質疑)※実技試験		
第23回 内容		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">SeasonIV——MS Excelの操作・活用——</div> Excel第1回：基本的な使用方法(画面の各部分の説明, ブックとワークシート, データ入力, セルの書式設定, データのコピー・切り取り, 貼り付け, データの保存等)		
第24回 内容		Excel第2回：オートフィル, ウィンドウ枠の固定, ページ設定, 印刷プレビュー, 印刷等		
第25回 内容		Excel第3回：表の操作(行の高さや幅の調整, 表示と非表示, 行や列の挿入・削除, セルの挿入・削除, 罫線と網かけ等)		
第26回 内容		Excel第4回：数式と関数①(数式の基本, 相対参照と絶対参照, オートSUM等)		
第27回 内容		Excel第5回：数式と関数②(関数の挿入, SUM, AVERAGE, MAX, MIN, COUNT, SUMIF, COUNTIF, IF等)		
第28回 内容		Excel第6回：グラフの作成(グラフの挿入, グラフの詳細な設定等)		
第29回 内容		Excel総合演習1		
第30回 内容		Excel総合演習2 ※後期試験期間中に実技試験。		

*** 評価方法**

①各回の課題の達成度(課題点), ②タイピング速度に応じた得点(タイピング点), ③実技試験(3回)の得点。

*** 評価基準**

課題点, タイピング点, 実技試験(3回)の得点を合計し, 100点満点における得点に換算した上で, 成績評価を行う。

*** テキスト**

使用しない。毎回プリントを配布する。

*** 参考文献**

授業で適宜紹介する。

英語 I (Xクラス)

通年 2単位 必修 受講対象学年1年次

林 孝 憲・米 川 聖 美

[授業概要・到達目標]

英語を通じて諸外国の文化・社会を理解するためのより深い、正確な読解力を養う。同時に国際社会化の時代を迎え、communicativeな英語の運用能力の基礎を養う。

[授業のねらい・方法]

英語で書かれた比較的読みやすい文章を読み、人間の生き方や文化を考え、読み取るとともに、高等学校までに学習してきた英文法の基礎重要事項を整理・復習する。同時に平易な日常会話教材を併用して、有用度の高い語句の聞き取り、並びに発話の練習を通して、英語による表現力の向上をはかる。具体的な書名については下記のテキストの欄を参照のこと。

[授業形態] (履修条件)

原則的に学生が調べ、考え、発表する演習形態の授業を中心とする。あらかじめ授業の教材に眼を通し、数回の素読とノートの書写を済ませて授業に臨むこと。高校時代に使用した辞書を持参すること。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	素読。事前のノートへの書写。単語調べ。	What a Story (The Real Alice in Wonderland part.1) Listening	ノートの整理。音読練習。 CDの聞き取り。	テキスト、辞書以外のものはその都度指示する。
第2回 内容	以下同上	What a Story (The Real Alice in Wonderland part.2) Listening	以下同上	以下同上
第3回 内容		What a Story (The Real Alice in Wonderland 練習問題) Listening		
第4回 内容		What a Story (The Lady Entered a UFO part.1) Listening		
第5回 内容		What a Story (The Lady Entered a UFO part.2) Listening		
第6回 内容		What a Story (The Lady Entered A UFO 練習問題) Listening		
第7回 内容		What a Story (The Dead Woman's Voice part.1) Listening		
第8回 内容		What a Story (The Dead Woman's Voice part.2) Listening		
第9回 内容		What a Story (The Dead Woman's Voice 練習問題) Listening		
第10回 内容		What a Story (The Death of Pompeii part.1) Listening		
第11回 内容		What a Story (The Death of Pompeii part.2) Listening		
第12回 内容		What a Story (The Death of Pompeii 練習問題) Listening		
第13回 内容		What a Story (The Bermuda Triangle part.1) Listening		
第14回 内容		What a Story (The Bermuda Triangle part.2) Listening		
第15回 内容	前期の内容の総復習	前期での学習内容がどのくらい習得できているかを確認する。		
第16回 内容	素読。事前のノートへの書写。単語調べ。	What a Story (The \$50,000 Wallpaper part.1) Listening		
第17回 内容	以下同上	What a story (The \$50,000 Wallpaper part.2) Listening		
第18回 内容		What a Story (The \$50,000 Wallpaper 練習問題) Listening		
第19回 内容		What a Story (The Titanic Disaster part.1) Listening		
第20回 内容		What a Story (The Titanic Disaster part.2) Listening		
第21回 内容		What a Story (The Titanic Disaster 練習問題) Listening		
第22回 内容		What a Story (A Boy's Dream part.1) Listening		

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第23回 内容		What a Story (A Boy's Dream part.2) Listening		
第24回 内容		What a Story (A Boy's Dream 練習問題) Listening		
第25回 内容		What a Story (Music for a Dead Man part.1) Listening		
第26回 内容		What a Story (Music for a Dead Man part.2) Listening		
第27回 内容		What a Story (Music for a Dead Man 練習問題) Listening		
第28回 内容		What a Story (Soup for a Russian Tsar part.1) Listening		
第29回 内容		What a Story (Soup for a Russian Tsar part.2) Listening		
第30回 内容	後期の内容の総復習	後期での学習内容がどのくらい習得できているかを確認する。		

*** 評価方法**

定期試験の成績を中心にレポートや小テストなどの内容を総合して評価する。

*** 評価基準**

レポートや小テストなどの平常点を40%、定期試験の成績を60%として評価する。

*** テキスト**

What a Story!『文法・単語で学ぶやさしいパラグラフリーディング』(南雲堂)

*** 参考文献**

その都度指示する。なお辞書は高校で使用したものでよいので必ず持参すること。

英語 I (Yクラス)

通年 2単位 必修 受講対象学年1年次

林 孝 憲・米 川 聖 美

[授業概要・到達目標]

英語を通じて諸外国の文化・社会を理解するためのより深い、正確な読解力を養う。同時に国際社会化の時代を迎え、communicativeな英語の運用能力の基礎を養う。

[授業のねらい・方法]

英語で書かれた比較的読みやすい文章を読み、人間の生き方や文化を考え、読み取るとともに、高等学校までに学習してきた英文法の基礎重要事項を整理・復習する。同時に平易な日常会話教材を併用して、有用度の高い語句の聞き取り、並びに発話の練習を通して、英語による表現力の向上をはかる。具体的な書名については下記のテキストの欄を参照のこと。

[授業形態] (履修条件)

原則的に学生が調べ、考え、発表する演習形態の授業を中心とする。あらかじめ授業の教材に眼を通し、数回の素読とノートの書写を済ませて授業に臨むこと。高校時代に使用した辞書を持参すること。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	素読。事前のノートへの書写。単語調べ。	主語と動詞の一致(文法) Listening	ノートの整理。音読練習。CDの聞き取	り。テキスト、辞書以外のものはその都度指示する。
第2回 内容	以下同上	主語と動詞の一致(読解) Listening	以下同上	以下同上
第3回 内容		前置詞(文法) Listening		
第4回 内容		前置詞(読解) Listening		
第5回 内容		従属節(文法) Listening		
第6回 内容		従属節(読解) Listening		
第7回 内容		現在完了(文法) Listening		
第8回 内容		現在完了(読解) Listening		
第9回 内容		受け身形(文法) Listening		
第10回 内容		受け身形(読解) Listening		
第11回 内容		使役形(文法) Listening		
第12回 内容		使役形(読解) Listening		
第13回 内容		知覚動詞(文法) Listening		
第14回 内容		知覚動詞(文法) Listening		
第15回 内容	前期の総復習	前期での学習内容がどのくらい習得できているかを確認する。		
第16回 内容	素読。事前のノートへの書写。単語調べ。	法助動詞(文法) Listening		
第17回 内容	以下同上	法助動詞(読解) Listening		
第18回 内容		仮定法(文法) Listening		
第19回 内容		仮定法(読解) Listening		
第20回 内容		関係節(文法) Listening		
第21回 内容		関係節(読解) Listening		
第22回 内容		関係副詞(文法) Listening		

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第23回 内容		関係副詞(読解) Listening		
第24回 内容		分詞修飾(文法) Listening		
第25回 内容		分詞修飾(読解) Listening		
第26回 内容		不定詞(文法) Listening		
第27回 内容		不定詞(読解) Listening		
第28回 内容		比較級・最上級(文法) Listening		
第29回 内容		比較級・最上級(読解) Listening		
第30回 内容	後期の総復習	後期での学習内容がどのくらい習得できているかを確認する。		

*** 評価方法**

定期試験の成績を中心に、レポートや小テストなどの内容を総合して評価する。

*** 評価基準**

レポートや小テストなどの平常点を40%、定期試験の成績を60%として評価する。

*** テキスト**

A New Approach to Understanding English Grammar『クラスで読む英文法』藤田直也著(朝日出版社)

*** 参考文献**

その都度指示する。なお辞書は高校で使用したものでよいので必ず持参すること。

【授業概要・到達目標】

小学校の英語教育を実践するための授業である。まず始めに小学校における英語教育の目的や現状、課題等を理解する。その上で、さまざまな言語教材を用いて実践演習を行っていく。単に英語の知識を伝達する能力を養うのではなく、実践的な英語活動を行う能力を身につける。

【授業のねらい・方法】

講義による説明の他に発話による演習を行う。これまで学んできた英語力、特に中学英語を駆使し、教師が生徒に英語でトピックを提示し、生徒が積極的に英語を発話する形式の演習を、教師と生徒の両方の役割を演じながら行う。学生による実践事例の発表では、各自が指導計画を作成、言語教材を用意し、教師役になって授業を行う。

【授業形態】(履修条件)

講義と演習形式を平行して行う授業である。講義の内容に即して、各自が発表の準備を行う。またレポートや課題を課す。

【各回の授業計画(内容)】

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	テキストを読んでおく。	小学校における英語導入の背景と現状、課題	ノートやプリントを復習する。	『小学校英語教育の進め方』岡秀夫・金森強(成美堂)
第2回 内容	以下同上	さまざまな英語教授法	以下同上	以下同上
第3回 内容		言語教材と実践		
第4回 内容		言語教材と実践		
第5回 内容		年間指導計画と一時間の授業の組み立て方		
第6回 内容		実践のトピック事例		
第7回 内容		実践のトピック事例		
第8回 内容		実践のトピック事例		
第9回 内容		実践のトピック事例		
第10回 内容		学生による実践事例の発表		
第11回 内容		学生による実践事例の発表		
第12回 内容		学生による実践事例の発表		
第13回 内容		学生による実践事例の発表		
第14回 内容		学生による実践事例の発表		
第15回 内容	これまでの授業内容をまとめておく。	総まとめの授業	レポート又は課題の準備をする。	

* 評価方法

発表を中心とした平常点とレポート又は課題の内容を総合して評価する。

* 評価基準

発表や小テストなど平常点を50%、レポート又は課題を50%として評価する。

* テキスト

『小学校英語活動実践の手引』文部科学省(開隆堂出版)、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社

* 参考文献

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫・金森強(成美堂)

基礎体育講義

半期 1単位 必修 受講対象学年1年次

清水 一 巳・渋谷 聡

[授業概要・到達目標]

体育理論と関連し、「健康」概念の歴史的、社会的変化について学習し、現代社会における健康の意味を問い直す作業を行い、自己の健康について考える。自己の身体を認識する為の視点、方法を身につけることを講義の目的とし、日常生活を通して「健康」への考察を深めていく。

[授業のねらい・方法]

講義形式、教室・視聴覚室併用

[授業形態] (履修条件)

「体育理論」の内容の講義を実施する。

資料蒐集や課題作成などの事前学習を有効に使用する。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	配布資料の概観	オリエンテーション	健康という考え方について	学習内容のまとめ 適宜紹介
第2回 内容	配布資料の概観	健康の歴史的変遷(1)概念の変化	学習内容のまとめ	適宜紹介
第3回 内容	配布資料の概観	禁煙について	学習内容のまとめ	適宜紹介
第4回 内容	配布資料の概観	健康に関わる社会の変化	学習内容のまとめ	適宜紹介
第5回 内容	メディアセンター等による資料蒐集	社会生活の変化とそこでの問題	学習内容のまとめ	適宜紹介
第6回 内容	メディアセンター等による資料蒐集	日常生活における健康維持の方法	学習内容のまとめ	課題レポートの作成 適宜紹介
第7回 内容	課題の作成および配布資料の概観	日常生活における食生活と運動の関係	学習内容のまとめ	適宜紹介
第8回 内容	配布資料の概観	運動と食生活のチェックと分析(1)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第9回 内容	配布資料の概観	運動と食生活のチェックと分析(2)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第10回 内容	配布資料の概観	日常生活における運動の方法	学習内容のまとめ	適宜紹介
第11回 内容	配布資料の概観	現代社会における運動の意味	学習内容のまとめ	適宜紹介
第12回 内容	配布資料の概観	自己と他者により形成される関係(よりよい社会)	とは	学習内容のまとめ 適宜紹介
第13回 内容	配布資料の概観	現代社会における身体の捉え方	トレーニングの考え方	指導計画の作成・提出 適宜紹介
第14回 内容	配布資料の概観	Q.O.L.と健康との関係	学習内容のまとめ	適宜紹介
第15回 内容	配布資料の概観	体育理論と健康の総括	学習内容のまとめ	適宜紹介

* 評価方法

試験および提出物(レポート、分析など)により、総合的に評価する。

* 評価基準

出席状況10%、授業態度20%、提出物20%、試験50%

* テキスト

適宜資料を配布する

* 参考文献

適宜紹介する

基礎体育実技

半期 1単位 必修 受講対象学年1年次

清水 一 巳・渋谷 聡

[授業概要・到達目標]

保育者、指導者として必要とされる基礎的な体力を得るとともに、子どもの遊び、運動に関連する諸理論を理解し、子ども期における身体運動の意味について理解を深める。

[授業のねらい・方法]

集団での運動・スポーツとのかかわりを深め、健康および人間関係の改善、向上を図る資質を身につけ、生涯にわたる生活の充実へとつなげる。

[授業形態] (履修条件)

実技を中心に行い、グループでの課題学習も取り入れる。

体操着、屋外用運動靴は各自で準備する。(体育館用運動靴は学校指定です)

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	授業内容の理解とスポーツテストの準備	オリエンテーション:体育において何を学ぶのか	学習内容のまとめ	適宜紹介
第2回 内容	実施方法の理解とスポーツテストの準備	スポーツテストの実施	学習内容のまとめ	適宜紹介
第3回 内容	実施方法の理解とスポーツテストの準備	スポーツテストの実施	学習内容のまとめ	適宜紹介
第4回 内容	各種運動の分類についてしらべる	運動の基礎技能①(歩く・走る運動)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第5回 内容	各種運動の分類についてしらべる	運動の基礎技能②(跳躍運動)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第6回 内容	各種運動の分類についてしらべる	運動の基礎技能③(投・捕運動)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第7回 内容	各種運動の分類についてしらべる	運動の基礎技能④(変形姿勢運動)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第8回 内容	体力と運動について調べる	遊具を用いた運動遊び①(マット、平均台、跳び箱など)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第9回 内容	体力と運動について調べる	遊具を用いた運動遊び②(縄跳びなど)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第10回 内容	体力と運動について調べる	集団での運動遊び	学習内容のまとめ	適宜紹介
第11回 内容	年齢段階の運動能力について調べる	幼児を対象とした、運動・スポーツのアレンジ法	学習内容のまとめ	適宜紹介
第12回 内容	運動特性の理解	ボール運動(ゴール系)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第13回 内容	運動特性の理解	ボール運動(ネット系)	指導計画の作成・提出	適宜紹介
第14回 内容	運動特性の理解	ボール運動(ベースボール系)	学習内容のまとめ	適宜紹介
第15回 内容	体育についての考えをまとめる	まとめ	学習内容のまとめ	適宜紹介

* 評価方法

実技試験および出席状況、提出物により、総合的に評価する。

* 評価基準

出席状況10%、授業態度20%、提出物20%、試験50%

* テキスト

適宜資料を配布する

* 参考文献

適宜紹介する

[授業概要・到達目標]

この講義は、平成10年4月1日に施行された「小学校及び中学校教諭の普通免許状授与にかかる教育職員免許法の特例等に関する法律」によって教員免許状取得に義務づけられた「介護等体験」の事前及び事後指導と、「ボランティア介護」に関する基本的な考え方について理解することを内容とする。講義を通して、「介護等体験」の目的、意義の獲得をめざし、さらに介護等体験で醸成された他者受容のあり方が小学校現場での多様な子どもたちを受容し、「子どもたちと共に生きる」という教育観につながることを認識させる。

[授業のねらい・方法]

「ボランティア活動」には、社会福祉分野、保健・医療分野、子どもの育成分野、環境・文化・スポーツ・国際交流分野など多様な活動があること、また介護等体験の目的がこれらの活動を通して様々な人と触れ合うことで、自分と異なる能力や価値観を認める心を醸成することであること、との理解をめざす。そこで、ボランティア介護に関する講義とともに、介護等体験を行った学生によるコメントや発表を通して、学生間で経験と認識を共有させ理解を深めていく。

[授業形態] (履修条件)

介護等体験の趣旨や意義に関しては講義を中心とするが、自分が介護等体験を希望する施設に関しては、主体的な調べ活動及び発表活動を取り入れる。

小学校教諭二種免許状取得者。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		・介護等体験の趣旨と意義について考え、目的を持って介護等体験に臨もうとする構えを持つ。 ・社会福祉施設での介護等体験に関する書類を作成する。	授業内容の復習をする。	『介護等体験ハンドブック』(大修館書店)
第2回 内容	高齢者や障害者に接した時の体験を想起する。	・四街道特別支援学校に提出する書類を作成する。 ・「施設実習の予備知識」のビデオを視聴する。 ・感染症に関する講話。	参観内容の復習をする。	四街道養特別支援学校関係資料
第3回 内容	留意事項を確認しておく。	・四街道特別支援学校参観	授業内容の復習をする。	
第4回 内容	質問事項を考えておく。	・オリエンテーション(講師来校:四街道特別支援学校の先生、場所:視聴覚室)	授業内容の復習をする。	
第5回 内容		・介護等体験の実際を、ビデオで視聴する。 ・ビデオ視聴後、感想文を提出する。	実習上の留意点をまとめる。	
第6回 内容		・四街道特別支援学校における介護等体験の事前指導を行う。 ・前年度の介護等体験者の感想文を紹介する。	実習上の留意点をまとめる。	
第7回 内容		・四街道特別支援学校で介護等体験を終えた学生の体験談を聞く。	実習上の留意点をまとめる。	
第8回 内容		・社会福祉施設における介護等体験の事前の説明を聞く。 ・記録の書き方を理解する。	授業内容の復習をする。	
第9回 内容	自分が希望する、社会福祉施設について調べる。	・社会福祉施設について発表する。	授業内容の復習をする。	
第10回 内容	自分が希望する、社会福祉施設について調べる。	・社会福祉施設について発表する。	授業内容の復習をする。	
第11回 内容	自分が希望する、社会福祉施設について調べる。	・社会福祉施設について発表する。	授業内容の復習をする。	
第12回 内容	質問事項を用意しておく。	・講師を招いて、介護等体験に関する講義を聞く。	授業内容の復習をする。	
第13回 内容	質問事項を用意しておく。	・講師を招いて、介護等体験に関する講義を聞く。	授業内容の復習をする。	
第14回 内容	質問事項を用意しておく。	・講師を招いて、介護等体験に関する講義を聞く。		
第15回 内容	これまでの授業内容を振り返る。	まとめ。		

* 評価方法

提出物、定期試験にて評価をする

* 評価基準

提出物、定期試験をそれぞれ得点化し、総合的に判断する

* テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

* 参考文献

『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』 現代教師養成研究会編 大修館書店